私はそうは思わない

佐野洋子

筑摩書房

私はそうは思わない

佐野洋子

筑摩書房

佐野洋子（さの　ようこ）
1938年北京に生まれる。武蔵野美術大学卒業。
絵本，童話，エッセイの分野で活躍。『100万回生きたねこ』『私の猫たち許してほしい』『佐野洋子の単行本』など多数の著書がある。

私はそうは思わない　©佐野洋子 一九八七

一九八七年五月二十五日　第一刷発行
一九八七年七月二十日　第三刷発行

著者　佐野洋子
発行者　関根栄郷
印刷　厚徳社
製本　和田製本
発行所　筑摩書房
東京神田小川町二ノ八
振替東京六一四一二三
電話東京二九一一七六五一（営業）
二九四一六七一一（編集）

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが、小社読者係宛に御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

Printed in Japan　ISBN4-480-81241-5 C0095

私はそうは思わない　目次

I

「まえがき」のかわりの自問自答5　二つ違いの兄が居て15　でっかいおしりの働き者だったから17　野っ原には可憐な花も咲き20　お友達なんかいりませんでした23　やがて慣れてくると女は26　もしかして夫婦ってこんなじゃないか28　段々畑を上がっていった家にお嫁にいった30　女は一度も起き上がらなかった32　なんだ野原の原なのか33　やっと月がどろのへいの上に顔を見せた37

II

こんぐらがったまま、墓の中まで45　なんだか料理を逆に作るのね50　正しい帝国ラブホテル53　子どもなんか生きているだけでいいのよ56　うううおれメロン食いたい58　『野々宮』は『天使のお道具』を運ぶ62　あんずいちじくバナナの木64　漏れる急須に明日はない66　体の具合が悪いから湯治に行くと69　空真青にペンキ色テカテカ晴れわたり70　「気がきく奴だ」と言われたいために私はい

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

つも気をきかせた74　「私の人生完璧だった」75　せめてこれ以上、誰も何も考えないで77　天気の方が偉いのである80　「なにか」をすると子供が生れるか81　腹が立っている時は自分がまっとうな人間である様な気がして元気が出る83　馬鹿面をしてふ抜けの様にテレビにしがみついている日本の少年たちよ84　白地図はバッハのようだ87　芸術は義務ではない88　ピストルの音が遠くでした90　ここだって東京93　ふとんを敷くスペースだけあればよい95　便所は大きな丸いかめを地面にうめこんであった98　目のまわりに銀粉をつけて起きて来る息子は場末のキャバレーのホステスみたいだった99

Ⅲ

どんどんわからなくなる105　「私はそうは思わない」115　理想の子供なんか一人もいない118　私はどちらも選べなかった122　雪はまっ白だと思っていた124　昔のように笑うことができなかった126　やがて子供は大人になる127　湿って汚らしい手が首のあたりから入って来るんですね131　学校は面白いでもなく面白くないでもなかった135

へえ一二十三年間という年月があったんだなあ138　鈍感な思い上がりが若さというものです――二十歳の佐野洋子様へ140　ねえねえ、うちの子だけどうしてあんなに可愛いのかしら142　どういう人になってもらいたかったの145　せめて一度だけでも子供を産ませてやりたかったなあ147　あ、これはダックスがお父さんだ149

Ⅳ

コスモスを植えたのは不機嫌な中年の父なのだ155　そばが二、三本茶黒くすすけた天井にぶら下がっていた159　姉という横暴を私は知らずに振り回していたのである161　私は母も子供だったのかと大変驚いた164　後をふり向かないで別れましょうって166　白墨の匂いのする白い靴をはいて母はどこへ行ったのだろう169　内地に帰ったら白いごはんにシャケを食べたい170　私はまたぞくっとしたいと思っている173　ひざをさする174　もうしばらく葬式はにゃあなあ177　あんたんち、青い鳥なんていないじゃん180　これでいいのだろうか、猫は185　鳥が空をとんでいても気の毒には思わない189

V

よしよし、そのままそのまま195　いやあ、わかりませんねェ201　生のタラコのうす皮をはぎとられた様な気がする205　わたしは仰天した210　「トラゴロウ」が食ったまんじゅうはもっとうまかったにちがいない215　たちまち機嫌がよくなる本218　人を愛することは能力なのだ221　ほろびない石の建物だからこそのお話224　むっくり起きあがると、八十の孤独をどうするのかと考えた227

あとがき230

私はそうは思わない

I

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「まえがき」のかわりの自問自答

◆子供のころいちばん悲しかったことはなんですか

「悲しい」って名前をつけた感情は、「悲しい」だけで出来ていないって思うわけで、私は一心同体みたいに異常に仲が良かった兄が居て、兄は私が十歳の時死んだのね。だけどそれは「悲しい」だけではないわけでね。きっともっと言い現わせないものだと思うけど、それを「とても深い悲しさ」って言っても「いちばん大きな悲しさ」でも違うのね。その時はボウ然として、死んだ顔みても「そんなはずないなァ」と思って、それからゴウゴウ泣いたんだけど、泣いたのはすごく大事なものを落してしまってとり返しがつかなくて、すごく損したみたいなわけ。自分が大人になって、「恋」みたいな感情を持つ様になった時、兄が十二歳で一度も多分「恋」なんかしないで死んだと思った時、とても兄の一生を可哀想だったなあと思って、自分が兄を失ったということよりも兄の一生が無念でとても悲しかったことがある。今もそう思うわね。

「悲しみ」っていうのは事件ではなくて、感情の底を流れる水流みたいなものだと思います。

◆子供のころいちばん嬉しかったことはなんですか

喜びとか嬉しさって悲しいとか苦しいことより通り過ぎてしまうと根を下さないみたいなところがあるじゃない。光みたいなものじゃない。子供の時のこと考えると、確かに強い光がパッパ

ッと輝いた瞬間が沢山あった様な気がするけど、とてもささいなことだった様な気がするの。私の母親は子供とスキンシップをするとか甘やかすとか抱きしめるとかしない人だったのね。それで毎朝化粧して、最後に自分の髪の毛に両手で椿油をぬるの。自分の髪の毛に油をつけ終ると、まだ両手に油気が残るのね、そして毎日、その時「洋子、洋子」って呼ばれてね、母は私の髪の毛に手の油をこすりつけて油をとるわけ。両手で私の頭をすごく強くなでるのね。紙の代りに私の髪の毛を使うだけなんだけど、頭をなでるにはちがいないのね、私その時毎日すごくうれしかった。椿油のにおいも甘ったるくていいの。

◆大人になってからいちばん悲しかったことはなんですか

私そんなに劇的な人生送って来たわけじゃないから、「一番」なんてきわ立ったことないみたい。それに何か一番とか二番とかの判断つけられない。それに「悲しい」ってなんだか感傷的な感じがして、好きじゃない。

子供が二歳位の時ね、保育園の女の子の背中にかみついて、その子の背中に歯形がついたって言うの。その子の親がカンカンにおこって、先生が家まであやまりに行けって言うの。あやまるのは別にかまわないんだけど、二歳の子供なんて私まだ天使みたいに可愛いって思っていたのね。それが、狼みたいにかみついたってわけで、私子供抱きしめて、オンオン泣いちゃうのね、何故かみついたのか、聞いても言えないわけじゃない。かんじゃだめよって言ったって、通じるかどうかわかんないじゃない。無理からぬ理由があるのかも知れないし、生れつき狂暴な子供を産んじゃったかも知れないし、それに、かんでから何時間もたって、子供可愛い顔して笑ったりして

るわけじゃない。その子抱いて、「かんじゃだめ、かんじゃだめ」って言うんだけど、何かその時すごく悲しかった。

◆大人になってからいちばん嬉しかったことはなんですか

これはもうばっちりあるんです。離婚した時です。客観的に見れば大変不幸なわけですよね、それが、朝起きると、もう体の底から喜びがつき上げて来るのね。それで、朝、ごはんを食べて座っていると、目の前に枯れたすすきが朝日に光って風にゆれたりしている。女手で金は稼がにゃならん、子供を育てにゃならん、別に男が居るわけじゃない、もう草一本生えてない石っころばっかの野っ原に吹きっさらしで立っているみたいな感じで、死ぬまで一人だって予感も実感もあるんだけど、もう嬉しくて仕方ない。多分ものすごい孤独感だと思うんだけど、それが又、嬉しくって仕方ない。大変な爽快感で歓喜みたいなの。朝日に光っているすすきなんか見ていると、ああ生きているって素敵だ、おてんと様があってありがたいってもう涙が出て来る程ありがたいのね。

別れた亭主もそう思ってくれればいいなあなんて勝手なこと考えたのはそれからずっとあとね。

◆お金を稼がなくてもよかったら何をしますか

死ぬまでお金稼ぎたい。私貧乏人のくせになまけ者なんだけど、何もしないでいたら罪悪感でウツ病になると思う。私、無心に楽しく遊ぶという事が出来ない生れなんだと思います。貴族の無為の虚無みたいなものと貧乏人の苦労のどっちを選ぶかと言えば、もう迷わず、貧乏人の苦労

を選ぶと思いますね。でも今、そのどっちも出来ませんね、世の中平べったくなってしまったから。あるいは、どっちもやっているのかも知れないけど。

私あり得ないこと考えられないんだ。

特に、たなからボタモチみたいなこと。

◆お金が一文もなくなったらどうしますか

病気で、年取って仕事が出来なくなったらってことですね。

黙って寝てます。そのまんま糞まみれで死んでもかまわないです。でもきっと民生委員が、どっか、予算のない老人施設にぶち込むかも知れないけど、そしたら、世間がそれで気がすむなら、そうしていただきます。そこでのあつかいに文句は言わないつもりです。

でも言うかも知れない。なんだ税金とれる時はとるだけ取りやがってとか、看護婦に月給分の仕事はしろとか、医者にきれいなババアにだけ親切にするなとか、わかんないわね。私に一文もなくても、私のこと好きで好きで仕方ないからめんどう見たいという人が居たら、あんたがそうしたいならそうしなさい、わしゃかまわんよといばってめんどう見てもらいます。

◆好きな絵をいくつかあげて下さい

ブリューゲルの「狩りする人」という絵、バルチュスの「部屋」、ピカソの絵全部、それから、いっぱい忘れてしまった絵、その時感動した絵いっぱいいっぱい。それから、子供の絵でいい絵全部、それから、精神分裂症の人が治療のために描いた絵、片山健の子供を描いた絵。

◆好きな本

「サン・ミケーレ物語」「アフリカの日々」「クレーブの奥方」「ぽるとがるぶみ」。でも私読むとすぐ忘れるんです。

「絶対安全剃刀」「ねずみ女房」。

◆男ってどんな生き物だと思いますか

そんなことわかる人居るんですか。

わたしがわかんないながら少しだけわかるのは、男って、生きる根拠ってものが自然にはわかんないもので、アダムの昔から、共通な幻想というか、観念とかいうものを必死で作り上げて、そのわく組みの中でそのわくをくずさない様に、世界中の男が手を結んで戦っているという感じがします。それをとっぱらうと、たちまち、スコンとすっころがって、地震でつぶれた家みたいにぺっちゃんこになる。ならないために、又新しい観念というものを絶えることなく作り上げてゆく。それが、科学であり哲学であり芸術であり金もうけであり、女とやることであり戦争であり政治であり、その他この世のもの全てであり人類の歴史そのものだったと思います。偉い、素晴しい、尊敬すると同時にバカみたいとも思いますし、健気だと思いますが、一昔前の高倉健みたいに「ウー」とか「ウッ」とか「男は黙ってサッポロビール」なんて言われると、一人でやってもらいたい。女を道づれにするなと思います。わたし、おしゃべりな男が好きです。「女女しい」と言われる男に脅威を感じます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com